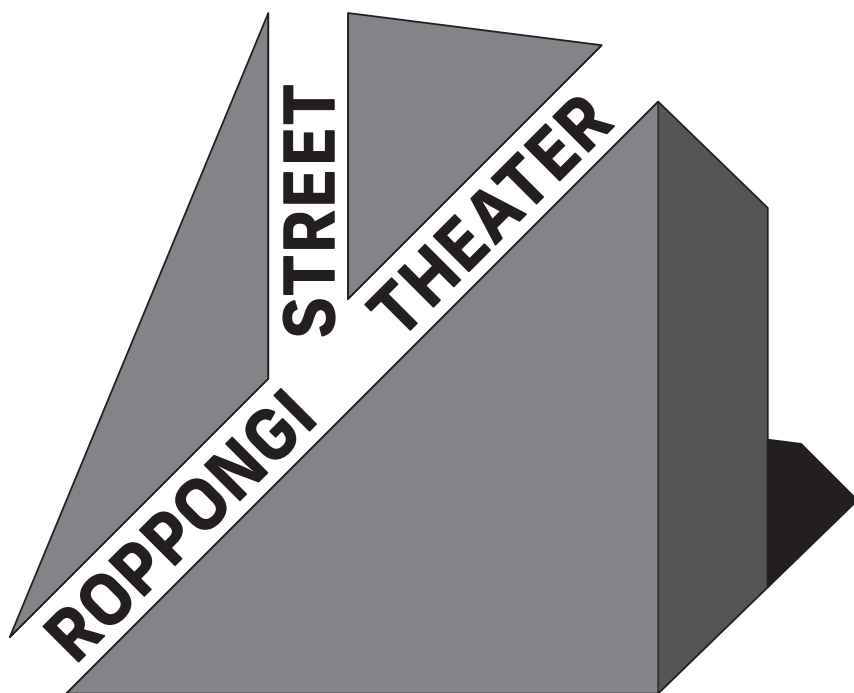


March 25, 2023 13:00, 19:00 (各回40分) 無料 Admission Free



Welcome to

ROPPONGI STREET THEATER

舞台になるのは、六本木の街なかにある建築やアート。劇場内で見ることが多いパフォーミングアーツが、誰でも楽しむことのできるパブリックスペースに飛び出し、建築・アート、パフォーマーと観客をつなぎます。記念すべき第1回は、東京ミッドタウンで多くの人を出迎えるパブリックアート《意心帰》と《妙夢》。彫刻家・安田侃さんによる大理石とブロンズで作られた作品です。加えて、森のような構造体の大屋根《キャノピー・スクエア》も舞台に。「瀬戸内サーカスファクトリー」のパフォーマーが、変幻自在にアクロバティックな現代サーカスを繰り広げます。いつも見ているアート作品や建築の新しい姿を発見できるかも？

会 東京ミッドタウン プラザB1&1F (東京都港区赤坂9-7-1)
安田侃彫刻作品《意心帰》《妙夢》
場 キャノピー・スクエア ※パフォーマンスは《意心帰》からスタート

ART & ARCHITECTURE:

意心帰

"SHINKI" Mindful Heart

妙夢

"MYOMU" Key to a dream

キャノピー・スクエア

Canopy Square

PERFORMERS:

瀬戸内サーカスファクトリー

Setouchi Circus Factory

「森のトコトコ 東京編」ストーリー

ある日、大都会と、遠くの深い森が、時空の穴でつながってしまいます。小さな穴からはみ出してくる森の木の精たち。同じ木から生まれた3つの生きものが、芽を出し、生きるために伸びて、動き始めます。「私たちの森はどこ？」精たちは大都会に遭遇し、その中に根を張り、枝を伸ばし、天に届くほどに成長しようとして。音や光に導かれながら、絡み合いながら、ふるさとの森を求めて。

公演内容



パブリックアート&建築がパフォーマンスと共演



意心帰／安田侃
Mindful Heart by Kan Yasuda

イタリア・ピエトラサンタの数十億年という時を経て生み出された18.5トンの大理石で作られた彫刻作品。石に彫られた穴に身を沈めると地球の一部になったような感覚になり、静かな太古の声なき声が石から聞こえてくるようです。石に彫られた穴の中で、まるで地球の中に入っているような安堵感を感じてほしい、という作者の想いが込められています。



妙夢／安田侃
Key to a dream by Kan Yasuda

東京ミッドタウン玄関口であるプラザでたくさんの人を出迎えるブロンズの彫刻作品。銅色の表面を焼き付けで黒い色をだしています。真ん中に開いた円環に腰掛けたり、都会の風景をそこから見上げてみたり、人々が憩うことができるアート作品です。刻々と移りゆく太陽の光と影を映し、人々の一日一日の思いと願いを包みます。



安田侃 (彫刻家)
Kan Yasuda / Sculptor

1945年北海道美唄市生まれ。1970年イタリアへ渡る。ローマ・アカデミア美術学校でベリクレ・ファッツィーニ氏に師事。以降、大理石の産地として知られるトスカナのピエトラサンタにアトリエを構え、大理石とブロンズによる彫刻の創作活動を続けている。故郷の美唄市に安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄がある。主なモニュメント設置場所に、東京ミッドタウン、東京ミッドタウン日比谷、東京国際フォーラム、札幌駅JRタワー、創成川公園、洞爺湖畔、セゾン現代美術館、酒田市美術館、朱鷺メッセ、ベネッセアートサイト直島、宮城県立美術館(以上日本)、ブリッジウオータホール(マンチェスター、イギリス)、ガラチーコ(カナリア諸島、スペイン)、オーロラプレイス(シドニー、オーストラリア)、APECナルパーク(釜山、韓国)、シティーガーデン(セントルイス)、1251アメリカ街(ニューヨーク、以上アメリカ)、トラヤヌス帝の市場(ローマ、イタリア)、ポーポリ庭園(フィレンツェ、イタリア)など。



キャンपीー・スクエア
／ビューロ・ハップホルド
Canopy Square / Buro Happold

森をイメージした柱に支えられた大きな屋根。地上25メートルの高さにある街のシンボルのひとつです。ガラスは約1,800枚使用され、一枚一枚全て異なる形状で作られています。設計を手掛けたのは、大英博物館のグレートコートも手掛けた建築構造設計事務所ビューロ・ハップホルドです。

六本木未来会議

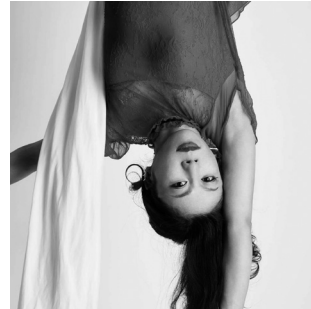
デザインとアートと人をつなぐ街に

「クリエイター・アーティストの視点から考える未来」をコンセプトにデザインやアートの観点から少し先の街の未来を発信するウェブマガジン。「六本木ストリートシアター」は彫刻家・安田侃さんのインタビューからでたアイデアを実現したプロジェクトです。



瀬戸内サーカスファクトリー
Setouchi Circus Factory

2011年、代表の田中未知子が北海道から香川県に移住し、現代サーカスという新しい舞台芸術を日本に誕生させるため、瀬戸内サーカスファクトリーを立ち上げる。2015～2019年の5年間で、日本初の現代サーカスフェスを高松市と琴平町で開催。2017年にはアジアで初めて、世界40か国以上が加盟する「シルクストラダ・ネットワーク」(本拠地・フランス、パリ)に正規メンバーとして認定され、2018年からはアジア7か国で「サーカス・アジア・ネットワーク(CAN)」を立ち上げ、現在までメンバー。作品創作、公演、教育事業など、日本の現代サーカスのパイオニアとして、香川を拠点に国内外各地で活動続ける。



© 平野愛智

吉田亜希
Aki Yoshida

幼少より体操競技に青春を捧げ、その後エアリアルとともに様々な身体表現を学ぶ。活動は浜崎あゆみ、郷ひろみ等のライブ、万博、テレビ、MV等幅広い。シルク・ド・ソレイユ登録アーティスト。近年ではオリジナルのサーカス器具による現代サーカス作品を国内外で発表。



長谷川愛実
Aimi Hasegawa

幼い頃から新体操とクラシックバレエに打ち込む。その後エアリアル(空中芸)を学び、現在はサーカスアーティストとして国内外問わず、舞台公演やコンサート、テーマパーク、大道芸フェスティバルなど幅広く活動している。シルク・ド・ソレイユ登録アーティスト。



野瀬山瑞希
Mizuki Noseyama

幼少の頃からクラシックバレエを始める。これまでに小池博史、安藤洋子等の作品へ出演する他、TV、芝居や朗読・即興パフォーマンス等様々な分野で活動を行う。現在は現代サーカスへ幅を広げ、シルホイール×ダンスの可能性を模索している。

MUSIC 音楽



曾我大穂
(a.k.a Herbert Hunger)
Daiho Soga

音楽家、多楽器奏者。舞台芸術グループ『仕立て屋のサーカス』主宰・演出家。フルート、テーブルコーダ、トイ(おもちゃ)楽器などを使った即興演奏を得意とする。バルセロナ・ベルリンなど国内外で活動を展開するシネマティック・バンド『CINEMA dub MONKS』のリーダー。